

ICTを活用した地域づくり ～ 忘れたくない町の記録を記憶 ～

実施主体：ハウモリ（森町）

①地域の概要

古くから文化や歴史の交流点としても知られ、国内最大級の縄文時代の環状列石（ストーンサークル）や、幕末、箱館戦争時に榎本武揚や土方歳三が上陸した地、北海道開拓の要であった「札幌本道」の海上路棧橋跡地などの、貴重な史跡が多く点在し、歴史を身近に感じることができる。漁業・農業が盛んな町であり、気候は盛夏でも30℃を超えることはまれで、厳冬でもマイナス15℃まで下がるとは珍しく、年平均気温7から8℃で、積雪も少なく、北海道でも温暖な地域である。

住民基本台帳人口（H31.1.1現在）15,575人

②取組の目的

元々はITボランティアとして発足し活動を開始したが、現在は森町を拠点に「なんかいい感じのこと」を行うというコンセプトのもとに活動。その一環として、写真アーカイブ、ITを活用したシステム開発やIT教育者の教育などを行っている。森町だけではなく、全国にメンバーが存在している。

③取組内容

【記録の記憶】

- 地域の人や観光客に森町をもっと知ってもらうため、また、森町の歴史を後世に残すため、半世紀ほど前の町並みを写した古い写真をデジタル化し、インターネット上で公開。
- 公開している古い写真の一部は、その写真と同じ場所を訪れ、現在の風景と重ね合わせて撮影する「時層（じそう）写真」として、国土地理院が公開している「地理院地図」をベースに作成したシステム「記録の記憶（<https://kirokio.howmori.org>）」で公開し、過去と現在を写真で比較できるようにしている。

※ 上記活動が波及した取組

- ・ 活動に関心を持った立正大学地球環境科学部（埼玉県）の特任講師が、地域連携フィールドワークの一環として、大学生と森高等学校の生徒と一緒に、町の歴史や文化、まちづくりの考え方などを主体的・能動的に学ぶ事を目的に、「記録の記憶」を使った活動「街を知り、街をつくる」を森町で開催。森高等学校の生徒が課外活動として参加し、ハウモリがサポート。2019年4月に、森町で初の写真展を開催。2019年11月には森町文化祭にて2回目となる写真展を開催。
- ・ この取組に参加した大学生が、故郷の石垣島で同様の活動を始める。教わった手法や地域に果たす役割を伝えるワークショップを開催するなど、森町だけでなく他地域でも活動が展開されている。

【その他の取組】

- 森町の歴史を調べて、その内容をウィキペディアに投稿するイベントを開催。
- ヒグマの出没情報を収集し、クラウド入力システムにより、いち早く情報を視覚化できる「ひぐまっぴシステム」の開発メンバーとして参加。隣接市町村の出没状況も共有。
- 子どもたちを対象にしたIT人材教育を行うため、大人向けのプログラミングセミナーを開催。セミナー参加者で「モリラボ」を立ち上げ、「地方版IoT推進ラボ（地域におけるIoTを活用した地域課題の解決や新しい事業創出等を推進）」に選定され、モリラボの事務局を運営。
- 他地域（函館市のCode for Hakodate）との連携強化。2019年11月には共同イベントで電子工作ユニットである「ギャル電」（Eテレワクワクさん等でも活躍）を函館鳥屋書店に迎え、子供向け工作ワークショップやトークイベントを実施。

首都圏に向けて活動を発信し、いろいろな賞を受賞したことにより、地元からも活動が認知されてきている。ICTを活用した活動を通して、多くの人との繋がりができ、そこから多くのアイデアをもらえるようになった。また、同じ志の仲間が集まり、「森町を楽しむ」ことで、森町とハウモリにとって、身のある活動となっている。

(参考URL：<https://howmori.org/>)

④実績・効果

- ・ 独自で行っていた記録の記憶に賛同してくれる方が出てきて、立正大学との写真アーカイブ及び地元高校との共同事業に繋がりが、他地域展開（現在は石垣市）も行われ始めた。
- ・ モリラボが、森町文化祭に電子工作「メタル盆栽」を出展し好評を得た。また、それをヒーローズリーグ2019（ものづくりコンテスト）に応募したところ、決勝リーグに進出し、審査員2名から個人賞をいただいた。

⑤苦労・課題

「特にない」と言い切れるくらい身の丈にあった無理のない活動をしている。あえて課題をあげるならば、新しく面白い取組にチャレンジするための資金の獲得。

⑥活用した制度等

- ・ 地方版IoT推進ラボ（経済産業省、独立行政法人情報処理推進機構）（令和元年度）
- ・ Code for Japan ブリゲード（一般社団法人 コード・フォー・ジャパン）
- ・ 北海道テレコム懇談会会員（北海道テレコム懇談会）

本取組のお問い合わせ先

ハウモリ 代表 山形 公式サイト上コンタクトフォーム及びTwitter (@howmori)